

健保組合
加入事業所の
ご紹介
その⑪

興真乳業株式会社

牛乳から広がる健康生活をより多くの人と
分かち合うために、さらなる安全安心な
商品を提供し、健康推進や社会貢献を担う

今回で紹介する興真乳業(株)は東京都文京区向丘に本社が、八千代市大和田新田に八千代工場と千葉工場があり、牛乳、乳製品、果汁飲料、清涼飲料、デザート食品などの製造・販売を行っています。そして、わが国における生産から販売までの「一貫経営の乳業メーカー第一号」が同社です。

現在の古谷恒夫社長は、同社としては四代目(古谷家としては三代目)にあたり、本社と八千代工場等の間を行き来するお忙しい毎日を送られています。また、同社は当健保組合設立時から加入されており、組合会議員もお引き受けいただいております。関連会社の京葉ディリーサービス(株)も昭和五十九年より当健保組合に加入されています。



古谷 恒夫社長

明治三十九年の創業以来、嗜好品、調理用への需要に応えながら大きく成長

昨年十二月九日、八千代市の興真乳業(株)を訪れ、池部美好取締役事業統括と健保推進委員でもある金子直樹総務課長のお二人に、お話をうかがいました。

同社の経営理念は、「牛乳を中心とし

七年には脂肪分の高いガンジー乳牛(牛の種類七〇頭をアメリカより輸入し、乳質の向上を図りました。九年に東京市内に支店、直売所を拡大して四〇ヵ所を超えるほどになり、「興真牛乳株式会社」を設立し、支店、販売所の運営にあたることになり、以後、同社が牛乳の製造販売を行いました。

十八年、戦時統制令により都内の企業と合同し、東京乳業(株)に事業を移管しましたが、二十年、戦災により都内の工場を焼失しました。戦後、農地法により牧場の大半を開放したため、二十五年に習志野牧場の一角に牛乳処理工場(現在の八千代工場)を建設し、総武牛乳株式会社を「興真産業株式会社」として事業を再開しました。

三十年、社名を現商号の「興真乳業株式会社」に変更しました。三十八年には牛乳の需要増加により日産五〇 kl (牛乳瓶二〇〇 ml に換算すると二五〇万本)を生産し、主な販売先は牛乳販売店と学校給食用でした。四十五年ごろからは、スーパーマーケット



◀池部美好取締役事業統括(左)と金子直樹総務課長

の台頭により激的な販売競争に突入しました。五十一年に紙容器入り牛乳、ヨーグルト、プ

リンの製造設備を増設、五十四年には直接販売事業に進出し、新商品開発では、紙容器入

主な商品はやはり牛乳です。宅配の販売店は、東京都・千葉・埼玉・神奈川県に展開し、学校給食用として東京都と千葉県に供給しています。チルド食品の開発にも力を入れているなかで、セブンイレブンとコラボレーションして商品化し、販売されたシュークリームやち

平成十八年に創業一〇〇年。人間ドック受診率一〇〇%など健康管理事業を充実

十八年には創業一〇〇年を迎え、ロゴマークも新しくなりました(囲み参照)。十九年にはISO14001(環境方針を定め、省資源、省エネなど努力目標を掲げた組織に与えられる国際規格を取得し、以後環境負荷の低減に努めています。

平成四年に千葉工場を竣工して、八千代工場は牛乳専門工場として、千葉工場は果汁、清涼飲料工場として製造する生産体制を整えました。

十年にはHACCP(原料の入荷から出荷に至る製造過程において徹底した衛生管理およびチェック機能の導入を推奨する国際規格、総合衛生管理製造過程システム)を取得されています。また、松戸市にあった保証乳業を合併し工場を集約しました。

ざりパン、コッペパン、プリンなどが好評を博しています。次回作も予定されているようで、楽しみです。

さて、健保組合として関心を寄せているのは、やはり社員の健康管理です。社員の方の健診は主に検診車によるものと、各自病院等で受診する人間ドックにより一〇〇%実施されているそうです。また、今年度はインフルエンザ対策として社員全員が予防接種できるように早くから準備していました。ワクチンの不足で病院等の選定には苦労をされたそうです。

体育事業については、興真球場のあったころは盛んに行われていましたが、工場体制の変化により現在は行われていないようです。しかし、野球部は活動しており、当健保組合主催の野球大会には、八千代市の工場協議会の日程とぶつかるキャンペーンしてまでも毎年参

た高品質でおいしい食品を毎日確実にお客様へお届けし、健康づくりと豊かな食生活のお役に立つ、「地域とより良い関係を築くとともに、従業員が人生を託すことのできる会社になる」となっています。

創業者の古谷精一氏は山武郡松尾町のお生まれ。明治三十四年に上京し慶應義塾に学びましたが、健康を害し中退し、療養のため東京・滝野川の辻村牧場に寄宿し、乳牛の飼育を手伝いながら健康回復に努められました。その後、池袋(現在の豊島区本町)に牧場を求め、乳牛の飼育と牛乳の販売を行い、明治三十九年に当時の東京市小石川区氷川下町(小石川療養所のあたり。町内の簗川神社境内には、「興真舎」と彫られた石碑があるそうです)において興真舎牛乳店として創業されました。当時の一日の販売高は五〇〇本(二合瓶)でした。四十年、日本で初めてトレーサビリティ(生産から消費までの履歴が明確にされていること)の発想を乳業事業に取り入れ、乳質を絶対保障できる責任ある

千葉工場全景▶



牛乳は、牧場の経営、飼料栽培農園の経営、牛乳処理工場の経営や、配給機関の運営を一貫して同一の経営主体が負わねばならないという信念から、「一貫直営体制」が開始されました。このころは、一般の家庭で牛乳を飲むことは珍しかったのですが、良質の動物性たんぱく質やミネラルを豊富に含む牛乳は、その高い栄養価から幼児用滋養飲料ばかりでなく嗜好品、調理用として需要が増しました。

大正十二年には販売高が日量二八石(当時の牛乳量の単位。一合瓶で二万八〇〇〇本となり、東京市の消費量の約一〇%を占めたそうです。

昭和に入ると、内務省令により畜産業、プラント業、販売業の分化が図られたことと、東京市内では都市化が進んで一貫体制経営も困難になり、個人経営を会社組織に改めました。二年、習志野牧場として「総武牛乳株式会社」が設立され、三年に現在の八千代市に六六万 m^2 の牧場を新設し、東京内外にあった牧場を移転しました。そして、乳牛六〇〇頭を飼育し、生産された原乳は小石川の本店工場に送られ、千葉から東京へ牛乳供給の体制を確立されたそうです。

加してくださっています(ありがとうございます)。

そのほか、「健康ウォーキング」にも多数の方が参加されています。池部取締役も健康ウォーキングに参加され、この期間中、平均すると一日、五、〇〇〇歩ほど歩かれたとのこと。車通勤をして、デスクワークをしていると一日一万歩は難しいとおっしゃっていました。

同社は創業から一〇〇年以上になりますが、牛乳から広がる健康生活をより多くの人と分かち合うために、さらなる安全安心な商品を提供し、健康推進や社会貢献をされていくことと思います。池部取締役ならびに金子総務課長には師走のお忙しいなか、長時間にわたり取材にご協力いただき、また、資料のご提供などありがとうございます。貴社のますますのご発展をご祈念申し上げます。今回の取材を終了させていただきます。

■コーシン乳業 4つの理念■

安全安心

社会貢献

自己研鑽

真実の追究



4つのミルクの滴から構成されたロゴマークはコーシンの頭文字「K」をかたどったもので、右上から左下へ斜めにつながる滴はコミュニケーションや心の触れ合いを表現すると同時に、人と人、地域、他企業とのジョイントやコラボレーションといった意味も表しています。



ホームページもご覧ください。
<http://www.koshinmilk.co.jp>